

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602496
法人名	有限会社 モクコーポレーション
事業所名	グループホーム 銀の庵 (ユニット名)
所在地	福岡県久留米市国分町1571-8
自己評価作成日	平成30年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成30年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

30年2月に新築移転しました。
リビングを中心にした居室でどこにいても安心して過ごすことが出来るような設えです。
認知症になってもその方らしい生活、自己決定の後押し、ACPの推進をスタッフと共に支援させて頂きます。
又、看取りについてもその方の主治医と訪問看護を中心に法人全体で取り組んでいます。
さらに、今回ジョパワーを導入したことにより空気の浄化、温度差のバリアフリーで健康に配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、道路新設に伴い移転してきており、閑静な住宅地に位置している。旧住所地の時からつながりのある方の所有地にグループホームを新設しており、垣根もなく隣の植木や草花が事業所の庭から眺めることもでき、落ち着いた景観を呈している。移転して日が浅く、地域との付き合いはこれからである。当事業所の質の高いケアを知り、応援してくれている隣人が地域の人たちを集めて、グループホームについて紹介してくれる予定である。移転により、利用者の中には多少の混乱を生じたものの、認知症ケアに精通した職員たちによって落ち着きを取り戻しつつある。理念に沿って利用者一人ひとりを尊重し、近隣住民の力強い支援により地域に根づいていくことが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした福祉づくり、その人らしく生きていく為の支援などを理念にあげ、本人の希望に添うようにサービスに務めている	実践の中で地域とのつながりの必要性、地域のありがたさを十分に感じ取りつつ、地域に根差した福祉づくりの理念を一番に掲げている。また、一人ひとりのケアについて会議で思い起こしたりして実践つなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しごみ置き場掃除を行った。2月に移転したばかりの為これからまた行っていく	移転してきたばかりで、地域との付き合いはこれからである。事業所を応援してくれている隣人が地域の人たちを集めて、グループホームについて紹介してくれる予定である。事業所からもボランティアも募る予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会にも参加し運営推進会議などで事業所への理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の方々の身体状況や行事説明などの他に、スタッフ会議の内容について説明をしたり、ミニ学習会も開いている。入居者と方々々と直接話しをしていただいたり、してグループホームへの理解を深めていただいている。会議の内容は職員会議で報告しサービスの向上に活かしている	運営推進会議に行政、地域包括支援センター、自治会会長、管理者等の参加を得て開催している。時に利用者や家族が参加することもある。利用状況の報告、移転後の利用者の状況やヒヤリハット等の質問に対して丁寧に回答し、参加者の安心に繋げている。事業所の移転があり、年間の開催予定回数に至っていない。	運営推進会議の開催はこれからの運営に有意義であることから、より多くの意見などをもらう機会となるよう計画していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議、講習会には出来るだけ出席するようにし、他事業所の事例、新しい情報を知り、サービスの質の向上に役立てている	グループホーム事業所協議会に加入しており、市から情報を得たり、勉強会に出席したりしている。介護保険制度や行政からの通知文書などの解釈や処遇改善等について質問することがあり、連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習会を行っており職員全体で理解できるよう取り組んでいる。玄関は基本的に鍵をかけないようにしているが、入浴、排泄時に職員が2人がかりで介助する場合等人手の足りない時はやむを得ず一時的に玄関に施錠する場合もある	職員は身体拘束となる具体的な行為やその弊害を理解している。基本的には身体拘束をしないが、職員二人掛けでの入浴介助をしたり、介護状況によっては玄関に施錠していることもある。家族が訪問してきた時は、説明し理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての学習会を行っており職員同士で協力し合い虐待の無いように注意している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回学習会を行っている。必要性があると考えられる場合すぐに活用できるように、パンフレット資料等をそろえている。また、入居の際にはご説明し資料をお渡ししている	入居時に成年後見制度と日常生活自立支援事業の説明をしている。玄関に市独自のパンフレットを設置するとともに、事業所内で年1回学習会を実施している。現在、成年後見制度を活用している事例があり、職員も制度を理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずご利用者様、ご家族様に契約書、重要事項説明書等を読み上げ説明を行なっている。その際質問、疑問点があれば説明を行ない理解、納得を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方と職員は日頃から親しく話し合える関係にあり、ご自分の希望をはっきりと伝えている。ご家族、ご親戚等の訪問時には必ず職員が話を聞くようにしておりご不満、希望があれば検討し対応するようにしている	意見箱を玄関に設置しているが、入ることはない。家族の訪問時に話しやすい雰囲気をつくり、コミュニケーションを図っている。利用者や家族からの要望等があれば、しっかりと聴きとり柔軟に対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の際に意見を聞く時間をとっている。日頃から職員の意見や提案を聞けるように心がけている	管理者は日頃から職員と話しやすい雰囲気づくりをしている。毎月1回の会議においても職員との意見交換をしており、職員の意見を反映させている。事例として、職員用のロッカーについて相談したことがあり購入したことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設以来、給与基準を定め、人事管理を行ってきた。処遇改善交付金も利用し今後のキャリアパスに向けてさらに給与規定を準備していきたい		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に当たっては何の制限も設けていない。30代から60代の年齢層でそれぞれの希望や個性に合わせ勤務体制を組んでいる。	現在、男性職員はいないが、採用において性別・年齢を問わない。事業所の移転の際、法人内異動の希望が叶い、利用者との関わりに生き活きと勤務し、やりがいを感じている。希望休暇も取得しやすく働きやすい職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部学習会を開いたり、日々のケア中でも互いに言葉遣いや、ケア内容について注意しあったり話し合ったりしている	事業所外の人権に関する研修に参加した職員が伝達研修をしている。日々のケアの中で人権を侵すことのないように利用者を尊重した実践をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に2回以上の研修レポートを義務付け各種の講演会や学習会の参加を呼びかけている。研修会等に参加した者は会議の場で研修内容を発表し、皆で検討し、ケアに活かせるようにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に所属し、そこでの勉強会などに参加したり、他事業所の話、事例を参考にしに向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、困っているこ要望等をお聞きしながら、信頼関係が築けるよう努めている。コミュニケーションを絶えずとるようにし、小さなサインも見逃さないように努力している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪された折にはゆっくり話をする機会を作るようにしている。その際、困り事、不安、要望をお聞きするようにしている。電話での相談も受けている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけてなるべく詳しく話を聞き本人にとって最適な支援は何かを見極め、出来るだけ家族や本人の希望に添うよう支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、食器の片付けや洗濯物を干したりたたんだりする際、楽しみながら一緒にするようにしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の都合のいい時間に訪問していただき、お部屋、リビングで一緒に過ごしていただいている。その際、職員が日頃の様子、会話の内容をお伝えし、情報を共有するようにしている。本人の状態の変化があった場合などは相談に乗っていただいて今後の方針を考えていくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪された折には、一緒に過ごしていただくようにしている。機会があれば馴染みの場所にお連れしたりしている。電話、手紙のやり取りをされている方もいる	地域の友人や入居前のサービス事業所へ遊びに行くことがあり、継続的な交流ができるように努めている。神社等の行きなれた場所へ行ったり、家族の協力によって馴染みの美容室や温泉などにも行ったりしており、これまでの関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに助け合って洗濯物を干したりたんだり食事の準備や下ごしらえをお手伝いしていただいている。出来ない方は、出来る方がお手伝いされている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに退所されたご家族、ご本人からの相談があった場合には応じるようにしている。同法人内でつなげるサービスがあれば連携を図っている。長期入院のために退所となった方は時々お見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのかわりから個々の特徴、生活をとらえ希望、気候を把握するようにしている。言葉数の少ない方は表情や態度から汲み取るようにしている	日頃の何気ない会話や表情の変化、独り言のなかからも、本人の好きなことややりたいことを確認している。困難な場合は家族や在宅時に利用していたサービス事業所の職員などから得た情報を元に、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で昔話をしたりご家族からお話していただいたりしている。ご親戚、ご友人が訪問されたときにも聞き取りをし役立てている。入所前のサービス利用時の情報も事業所から頂くようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に、身体状況、精神面、活動したことを記載するようにしている。全職員が記録に目を通し情報を共有するようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望、意向を確認し、主治医とも相談して作成している。また、希望、意向を直接表現できない方もおられるため、表情や態度から汲み取るようにし職員全体で本人のニーズが何か話し合いながら作成している	日頃から家族意向の確認に努めている。また病後にリハビリ開始のタイミングを主治医に確認したり、法人内のリハビリ専門職から事業所でする運動の助言を受け実施するなど、利用者がよりよく暮らすことを意識し介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に身体状況や日々の様子、食事、水分量、運動量、会話した内容なども記録し全職員が目を通すようにしている。変化があった場合には話し合いを行い見直しに活かせるようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望には出来るだけ添えるよう努力している。入院された場合も家族に代わって見舞い、洗濯物を取りに行ったり、遠くのご親戚が訪問された場合に宿泊していただいたりしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内に大家さん宅があり協力を得ながら地域資源の把握に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医をを設け急変時にも柔軟に対応が出来るようしている。 家族が希望される医療機関がある場合はその医療機関を受診している。	事業所の移転に伴い、病院から遠くなり、往診が受けられなくなった利用者もいる。事業所の協力医にかかりつけ医を変更したり、家族の支援でこれまでの病院への受診を継続するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を看護師に報告している。変化があった場合にもすぐに看護師に報告し、必要があれば主治医に連絡を取り、適切な受診、看護が受けられるよう支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、職員が付き添って必要な情報提供を行うようにし、早期に退院できるよう度々病院に出向き医師、看護師と情報交換している。退院に向けての受け入れ態勢も整えるようにしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される時点で、ご本人、ご家族の意向をお聞きするようにしている。訪問された時や機会あるごとに話し合いを行うようにしており、状態の変化があった場合は主治医も交えて今後の方針を考えていけるように支援している	事業所では積極的に看取りを支援している。入所時の説明に加え、終末期が近づくと医療職も含めたチームで家族へ再度の説明や、意向の確認を十分に行い、家族に寄り添いながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開いて応急手当の方法、事故対応の方法を学んでいる		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っている。地域の方々には運営推進会議等で機会あるごとに、災害時の協力をお願いしていきたい。	年に2回昼夜間想定で、火災、水害などの訓練を行っており、昨年8月は区長参加で消防署立会いの訓練を行っている。事業所が移転し3月中に次の訓練を予定している。転居後間もないこともあり、一時避難場所の周知、備蓄品や非常時持ち出し品の整備に至っていない。今後は夜間の訓練実施も検討している。	災害はいつ発生するか分からないものなので、早いうちに一時避難場所の周知、備蓄品や非常時持ち出し物品の確認をする機会を作ることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに丁寧な言葉遣いで尊厳を傷つけないように配慮しながらその方に適した言葉で分かりやすく対応している。	利用者への言葉かけは尊厳を損ねないように、十分配慮している。利用者一人ひとりが自然な流れの中で生活するために、起床や朝食の時間を個人のペースに合わせて変えるなど、本人本位の生活が送れるよう対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を表せるように、簡単な言葉や方言でお聞きしたり、お話かけをし、ご本人が決定しやすいように工夫しお尋ねしたりしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望、体調や状況に合わせて、起床、就寝、食事の時間なども変えている。外出やレクリエーションも無理強いせず、希望にそって行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度程度の訪問理容。行事時のお化粧が出来るように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月やクリスマス時等の行事食。お好み焼き・焼きそば作り等ご利用者と一緒に準備など手伝って頂いている。	朝食と夕食は外注の食事を温めて提供しており、毎日の昼食とおやつは利用者の食べたいものを職員と一緒に手作りしている。献立、買い物、下ごしらえなど、事業所の一員として利用者も活き活きと取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	太りすぎ、やせすぎのないように食事量、内容、水分量に気を配っている。個人に合わせ、主食の量、糖分の量を調整し、きざみ、とろみ食などそれぞれに合わせている。水分量の取れない方には、果物、ゼリーを多めに召し上がっていただくようにしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る範囲で毎食後に歯磨きやうがいを行っている義歯を使っている方は夜間はずしてもらい消毒をしている。訪問歯科の定期的な往診も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排尿記録をつけ失敗のないようにトイレ誘導、介助を行っている。訴えのある方はその都度、訴えない方は時間でトイレまで誘導するようにしている	排泄パターンを確認し、早めにトイレ誘導することでパットの使用枚数が減ったり、紙おむつから紙パンツに変更したりする事例があり、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について勉強会を行っている。食事に野菜、芋類を多くして、自家製ヨーグルトをおやつに食べていただくようにしている。排便記録をつけ個々に排便周期を把握し、水分補給をおこなっている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日は基本的に決めているが、毎日入浴される方や、2～3日に1回の方、起床時すぐ入浴など様々で、本人の希望や、体調に合わせて入浴できるよう支援している	日曜日以外の午前中に体調に応じて日に数名ずつ入浴している。入浴後に何を着るか相談しながら決めるのも、利用者の楽しみの一つとなっている。希望があれば、午後の時間帯でも入浴できるよう対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に、家での生活習慣にあわせ、ベッド又は布団で寝ていただいている。就寝時間も今までの習慣や希望に合わせている。寝付きの悪いかたは職員が添寝したり、音楽をかけたりするなど工夫をしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬ボックスを作っており、説明書き、処方箋を貼って、服薬状況用法、容量を確認できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭に出てホーム内の花、自室の花を活かえたり、散歩、音楽や歌を楽しまれたり、新聞を読むことを日課にされている方など本人の希望や趣味を活かして過ごしていただいている。掃除や食事の準備後片付け、洗濯物を干す、たたむなど出来るだけ一緒に行うようにしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には希望があればいつでも外出できるように支援している。草取りをされたり、買い物に行かれたりしている。	移転したばかりでもあり、今は近所の散歩や日々の買い物に出かけている。気候も良くなるので、地域の情報を得ながら、遠出の計画を検討している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にご自分でお金を払っていただいたり、支払しやすいように、財布を開ける介助をしたりしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望がある場合は自宅、友人宅に電話したり、こちらから連絡してお電話していただいたりしている。賀状、季節の便りが来たときは返事を出せるように支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を、玄関や居間にいけるようにしており、季節感のある物を皆で作って飾るようにしている	食堂の大きな窓からは小さな森が見え、自然の明かりや、地熱利用システムによる自然な温かさが伝わり、利用者はゆったりとした雰囲気の中で過ごしている。隣接の住人と季節毎に花を植え育てようと計画中である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	温かみのあるリビングで座席も気の合った方同士が隣り合わせになるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの物を持ってきて頂いている。ご本人が過ごしやすいようにそれぞれでベッドの位置も工夫している。	ダンスや机など以前から使い慣れたものを持参し、本人が使いやすい様に居室に配置している。本人や家族の希望で小さな畳を敷いて布団に寝ている利用者もあり、それぞれが居心地良く過ごせるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋にプレートなどを貼りご本人が認識しやすいよう工夫している。		